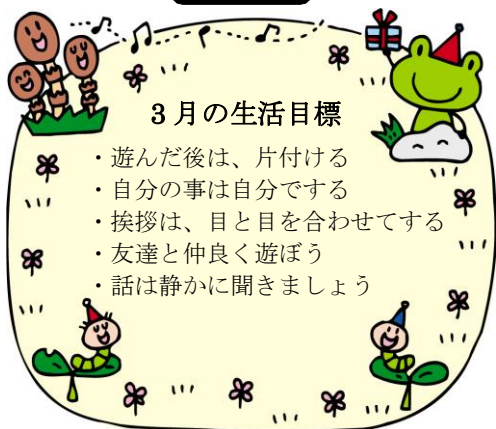


永原学園地域子育て支援センター
さんこう・ぽぽらだより
令和4年3月発行・第179号
認定こども園西九州大学附属 三光保育園
TEL: 0952-31-6877



「うれしいお便り」

2月は、本園の職員と園児にもコロナ感染者が出てしまい、いろいろな対応を迫られました。保育の実施にも影響が及びましたが、有難いことに保護者様方のご理解とご協力で休園せずに済みました。そんな時、今小学校2年生になる卒園児の書いた作文をお母様が送って下さいました。国語の授業の一環で「自分の紹介したいこと」がテーマでした。彼は、「保育園の先生」という題で3つのことをみんなに紹介していました。1つ目は、「やさしいです。いつもやさしくて安心して保育園に行くことができる。」2つ目は、「笑顔です。僕は笑顔でいつも心がぽかぽかでした」3つめは、「よく話しかけてくれることです。色々なことをはなしてくれました」！

コロナの渦中であって、疲弊してしまいそうな私達の心に、元気と勇気をもらおうお手紙でした♡

令和3年度のぽぽらの活動も色々な制約が出て、思うような活動ができませんでしたが、子ども達に会った時だけは心から楽しい時間を過ごすことができました。

4月からの活動がうまく運ぶように祈りばかりです。
(三光保育園園長)

佐賀県にもまん延防止等重点措置が出されたため、2月の子育て支援事業は自粛させていただきました。ご理解とご協力を頂き、ありがとうございました。なお、今後も安全に子育て支援の活動を続けさせていただくために、感染防止対策を十分に頂き、少しでも体調不良がありましたら来園を遠慮していただく等、ご配慮をよろしくお願いいたします。

「シニアサロンぽぽら」

子育て支援センター「さんこうぽぽら」では、月に1回地域の方にお越し頂き楽しいひと時を過ごしています。マスクを着けておしゃべりや物作りを楽しみませんか？

日時：3/18 (金) 10時～11時

～まとめと次年度のお話～

★子育て支援の公式LINEアカウントができました。
ぜひ来園時にご登録ください。

3月の「子育て支援事業」のお知らせ

- ・3月11日(金) …フリーディ
- ・3月15日(火) …なかよしミックス
- ・3月16日(水) …なかよしミックス

※時間：10時～11時

※開催場所：子育て支援センター・運動場・他施設(公園等)

※事前の電話での申し込みが必要です。

3月分の申し込みは、3/1～9時半～17時です。

7日・8日のフリーディは、中止になりました。

★新型コロナウイルス感染状況により、計画を変更する場合があります。出かける前に必ずホームページや公式LINEを確認してください。感染症対策にもご協力ください。

♪育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。お気軽にお申し込み下さい。

※毎月第3火曜日の14時～16時までは、西九大短大部教員による食育相談を行っています。

事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。

♪さんこう・ぽぽら開放の時間帯について♪

【開園日】月～金(祝祭日・お盆・年末年始を除く)

【時間】9:00～12:30

12:30～13:30(昼休みの為閉園)

13:30～16:00

- ・園行事の為、ご利用できない場合があります。
- ・出前支援の場合は、担当職員が不在になります。
- ・ご利用の場合は、必ず電話での申し込みをお願いいたします。

「父親の役割について」

西九州大学子ども学部心理カウンセリング学科 准教授 赤川 力

ある中学校でのPTA主催の講演会での出来事です。保護者のお母さんから「子どもたちが言うことを聞きません。どうしたら良いですか？叱っても駄目です」と質問がありました。私は、ある先生の著書を思い出しながら、『お父さんがサボっているからです。お父さんの仕事は、子どもを叱ること、注意することです。お父さんにもっと動いてもらわないといけません』と答えました。すると、自然と拍手が起こり、「そうだ、そうだ」とのお母さん方の声が会場中から聞こえました。その場にいた数名のお父さん方は、全員下を向かれています。

この出来事は、忘れられない出来事になりました。いかに母親が父親の役割である子どもを“叱る”ということを担当しているのか、父親が子どもを“叱る”ことが出来ていないのか、ということを感じました。

それから数年後、全く同じことが、わが身に降りかかります。私は単身赴任で家を留守にするようになりました。しばらくして、夏休みに赴任先から戻ると、小学生の次女が<お父さん、前と比べて優しくなったね>と言います。私は驚きながら、『そう？』と答えると、<うん>との返事です。月日は経ち、2年間の単身赴任を終えて、再び家族と暮らし始めると、再び次女が<お父さん、厳しくなったね。前のお父さんの方がいい>と言います。私も驚きながら“私は変わっていないのに”と不思議な気持ちでした。

これらのことをしばらく考えていると、あることに気が付きました。おそらく、私は単身赴任中、普段の子どもを見ていないため、叱るにも叱れなかったのではないかと。妻が私に代わって、子どもを叱ってくれていたのではないかと。そのため、子どもからすると、父親が<優しくなった>と感じたのではないかと。ところが、再び家族と過ごし始めると、普段の子どもの様子を見ていますので、叱るようになります。子どもからすれば、叱られない方が良く、<前のお父さんの方がいい>、となったのではないかと、ということです。

はじめの講演会の話に戻りますが、もしかすると、多くのお父さんは忙しくて家にいないことが多く、子どもを叱るに叱れない状態かもしれません。子どもを叱るときは、子どものことをよく見なければ、適切なことは言えません。子どもの側からすると、“知らないくせに、こういう時だけ、なんで？”となります。叱るにしても、何をするにしても、まずは子どものことを、出来る限り^(※)よく見ておかなければなりません。このことに気付いてから、私は、父親について話をする際、私の体験を交えながら、お父さん方のそれぞれの事情にも配慮しながら、話をするようにしています。同時に、会場で下を向いていた数名のお父さん方に申し訳ない思いをさせてしまった、私も同じなので偉そうなことは言えなかった、と反省します。

※完璧な人間はいませんので、出来る限りの範囲です。また、育児で忙しい中では、よく見る余裕もないと思います。あくまでも、出来る限りです。